注) キック制限区域はキックに対して守備者の危険防止のために設置し、守備側の野手はキックされるまで区域内に入ることはできない。（故意に入った場合は退場となる場合がある）

(9) コーチャーズボックスは、一塁側および三塁側の双方に、それぞれ塁の外野側の先端を起点として、ファウルラインから外側へ 3m 離し、本塁方向へ 3m、境界線方向へ 1m の長さにひく。

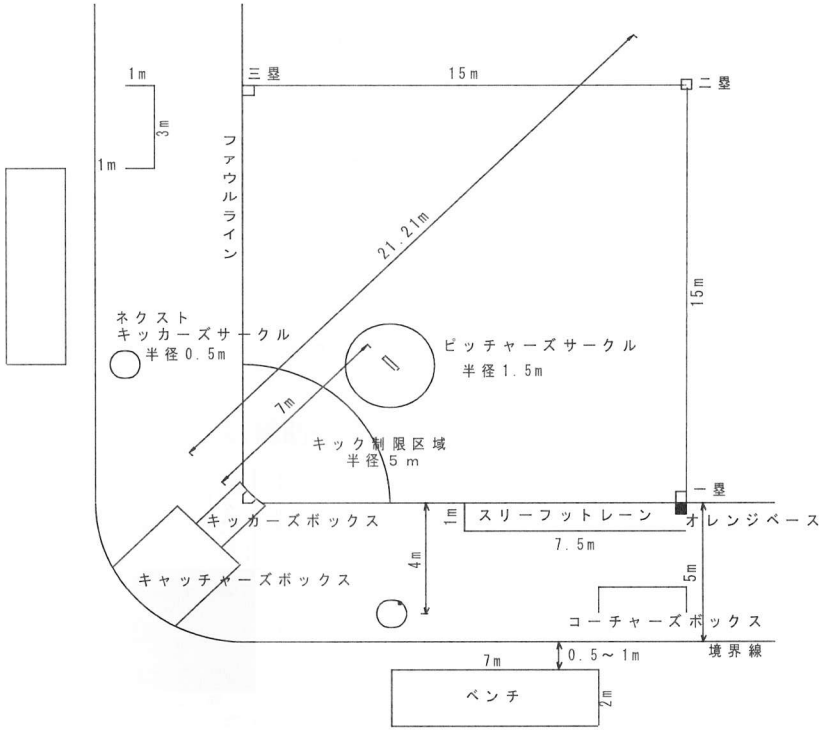
(10) ネクストキッカーズサークル（次蹴者席）は、一塁側および三塁側の双方にキック制限区域とファウルラインの交わる点から、境界線へ直角に 4m の点を中心に半径 0.5m の円をひく。

(11) ベンチ（選手控席）は、一塁側および三塁側の双方に境界線の外側から 0.5m以上 1m 以内の位置に、コーチャーズボックス本塁側の線の延長線上から本塁方向に長さ 7m、後方へ 2m の境界線と平行に引いた区域内とする。

注) ベンチには選手、監督、コーチ以外は入ることはできない。

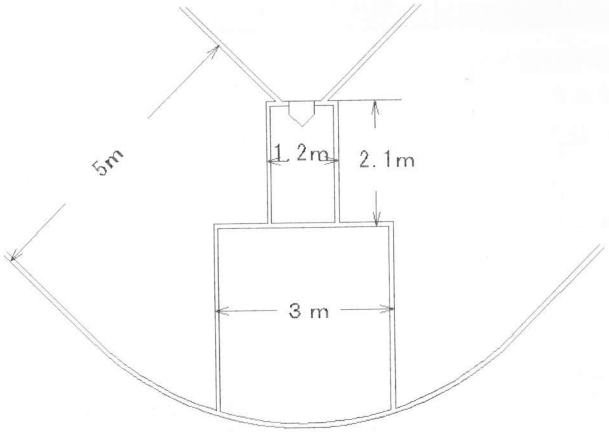
(12) 諸ラインは、それぞれの区域内に含まれる。ライン幅は 5～7.62 cmとする。

競技場全体図

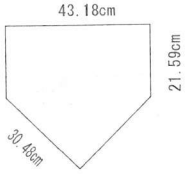


【図 1】

ホームベース周辺図

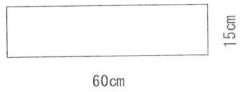


【図　2】



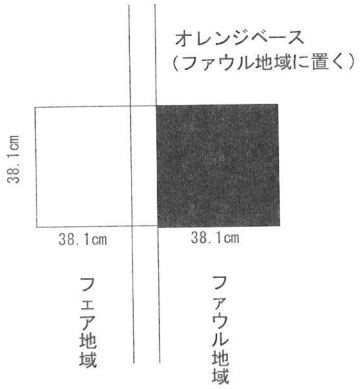
ホームベース

【図　3】



投手板

【図　4】



一塁オレンジベース

【図　5】

第2章　用　具

1.　ボール

ボールは、フット＆キックベースボール専用球とし、ボールの硬さはコンクリート等、舗装面で 1.5m の高さから自然に落下させたとき、その第1バウンドが約 1m の高さに弾む程度のものとする。（ボール専用圧力計で代用することができる 0.026～0.028Mpa）なお、試合中は審判員がボールを管理する。

2.　ベース

(1)　本塁ベースは、ソフトボール用のものとし、グラウンドと上平面が一致するように埋め込む。　【図　3】

(2)　一塁・二塁・三塁ベースは、ソフトボール用またはこれに類するものを使用する。

3.　ダブルベース（補助ベース）

ダブルベースは、一塁の守備者とキッカーランナーとの接触などの**危険防止**のために用いるベースで、ホワイトベース（白色部分）はフェア地域に、オレンジベース（オレンジ部分）はファウル地域に置く。　【図　5】

(1)　蹴球が白色ベースに触れたときはフェアボール、オレンジベースのみに触れたときはファウルボールである。

(2)　キッカーがキッカーランナーとなり、一塁でプレイが行われるときは、オレンジベースに触塁しなければならない。

注）白色ベースでは触塁したと見なさない。

(3)　一塁ベースを走り越した後は、キッカーランナーは白色ベースに帰塁しなければならない。

注）走り越したキッカーランナーが一度でもフェア地域に入った場合は進塁の意志の有無を問わず触球されればアウトとなる。

(4)　守備側のプレイヤーは、常に白色ベースを使用しなければな